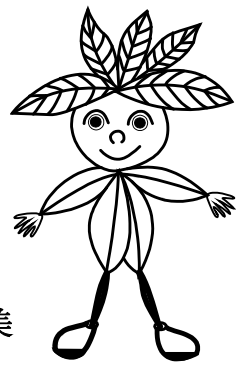
ゆずり葉



鴨居地区社会福祉協議会　2014 年 4 月 20 日発行　第 48 号　発行責任者　岡本　幸美

第十八回　「福祉講演会」特集　平成二十六年三月二十六日（水）開催

福祉講演会に参加して

元緑区福祉保健課　青木　正章

三月二十六日、鴨居会館での福祉講演会に参加しました。

「今年は例年と趣向を変え、一階では鴨居の様々な活動を紹介するパネル展示や災害発生時の非常食の展示などを、二階では沢山の人に来ていただけるような講演会を考えている。」こうしたお話をスタッフの方々から伺ったのが新年一月六日のことでした。

そして当日、一階のパネル展示では様々な団体がとても活発に活動している様子が非常によくわかり、二階の講演会は立ち見が出るほどの満席で、一階のモニターでも多くの人が見ておられ、共に笑い、共に感動し、とても楽しい時を過ごすことができました。短期間で準備に尽力されたスタッフの皆様にまず、お疲れ様でしたと申し上げます。

今年の講演会の講師は、この三月に真打に昇進したばかりの落語家、三遊亭究斗師匠でした。

師匠の落語を初めて聞いたのは、七年前の浅草演芸ホール。話の合間に、絶妙なタイミングで歌を織り交ぜる姿がとても印象的でした。

そして今回、究斗師匠を講師としてお招きすることが決まったと知り、この日を心待ちにしていました。

演じられたのは、「一口弁当」と「ありがとうは世界を変える絆３９」の二席。

「一口弁当」は、いじめられている主人公が老人と出会い、明るく元気に笑っていれば周りは心を開いていく、マイナスな考え方を変えればプラスになる、というストーリー。アンジェラ・アキの「手紙～拝啓・十五の君へ～」が効果的に挿入されていて、楽しく笑い、最後はホロリとくる話でした。

「ありがとうは世界を変える絆３９」は東日本大震災の直前に作られたという話。徳のない主人公が、世のため人のために何かをしようと、今までの生き方を変え、一歩踏み出す。「ありがとう」と言い続けることで周囲の心が変化し、最後には自分に徳が返ってきたという話でした。

どちらの話も、一歩踏み出すことや素直にポジティブに考えることの大切さ、またそれを実践し続けていれば、周りを変えていけるということでした。

まずは、自分自身からポジティブに考え、ありがとうの気持ちを持ち続け、それを声に出し続けていく、そのことを地道にやっていこうと強く思った次第です。

最後まで読んでくれて

「ありがとぉー」

福祉講演会　併設各種展示
防災食試食、展示販売･休憩所の様子

鴨居いきいき福祉講演会

鴨居第四地区自治会　会長　酒谷　英一

鴨居福祉講演会が、平成二十六年三月二十六日（水）鴨居会館で開催されました。

当日は、「福祉パネルの展示」「災害時の備蓄品展示・試食会」「陸前高田応援グッズ販売」「ホットカフェでの情報交換」等が催され、会場来客者数は二百人以上で盛り上がりました。

また、緑区役所・各地区ケアプラザ・各地区関係者も多数来場されていました。

午後二時からは、『三遊亭究斗　真打』による「ミュージカル落語」二題があり、百席以上用意した二階の会場は満席、和室も座布団を敷き詰め大勢の見物者でした。また、会場に入りきれない人たちは、一階で中継された映像に見入っていました。

「歌う講演会」の面白いお話の中で私が感じたことは、地域のつながりや、一人ひとりが同じ環境の中ではみな平等であり、お互いに支え合う気持ちの大切さと、普段忘れかけていた大切なものを、もう一度思い出し感銘を受けた次第です。

福祉活動はどちらかと言えば、地味で根気のいる活動ですが、関係者の皆様力を合わせがんばって下さい。そして住み良い鴨居・楽しい鴨居を築いていきましょう。

鴨居は、私が題名をつけるとすると少し長くなりますが、『福祉の街鴨居・鴨居に住んで良かったと感じ・感謝する街』、それが鴨居の街だと思っています。

それは、地区社会福祉協議会・民生児童委員協議会・各種団体等のご協力の賜です。

朝早くから、お手伝いいただきました関係者の皆さんに、『三遊亭究斗さん』の御言葉を拝借して大きな声で

『ありがとう』とお礼を申し上げます。

プラス志向で長生きしよう

米山　貞夫

最近、福祉講演会が面白い。

究斗師匠の公演は、伝統芸能に時代感覚をとりいれた意欲作として、十分楽しめた。

八十路を過ぎたわたしは、感性が鈍ったせいか、お笑い番組を見て女房が声をたてて笑っても、少しも面白くなく、たまにニヤリとする位である。

ところが今日の公演は、さすがプロの芸に引き込まれた。

「一口弁当」は、いじめ被害少年の心情に涙し、落語家の語り口に大笑いし、苦難を乗り越えた少年に励まされた。

「ありがとうは世界を変える絆３９」は、荒んだ社会問題に示唆を与えた。激しい競争社会の中で生き残るために、他人のことなどかまっていられず、それが地域にも反映して、心がバラバラで住民同士会釈の少ない時代を生きることになってしまった。

六十代に入った主人公はこれではいけないと意を決し、民生委員を引き受け、一軒一軒回って声をかけ、何を言われても「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えて歩いたと言う。そして最後に究斗師匠は、「感謝の気持ちは心の汚れを落とす。今必要なのはこの心の持ち方ではないでしょうか。」と結んだ。

コンサートで良い音楽を聴いて会場を出るとき、心の汚れがきれいに洗い流され、さわやかな気持ちになれることがある。また、人とのふれあいの中で心安らぐことも多い。

パネル展示を見て、地域に様々な催しがあるのに参加者が限られないよう、呼びかけをしてほしいし、体の悪い人には民生委員に頼るだけでなく、ご近所でも見守りたい。

人生、明るく楽しく生きよう。だって「笑う門には福（健康）来る」と言うでしょ。

大盛況！
三遊亭究斗　真打

長津田

片平　明子

思いがけずお誘いいただいてミュージカル落語なるものを聞く機会を得ました。三遊亭究斗さんは劇団四季のご出身だそうで実に堂々とした歌いっぷりでした。

お弁当を用意できない貧しいいじめられっ子がクラスメイトから一口ずつ弁当をもらって凌ぐという「一口弁当」では、もちつもたれつという支え合いの大切さを、退職後のサラリーマンがふとしたことから民生委員を始める「ありがとうは世界を変える絆３９」では地域のつながりの大切さを、それぞれ織り込んだ楽しいお話でした。教育と娯楽を合体させたエデュテインメントですと究斗さんはおっしゃっていました。

どちらの話も孤立した者が行動を起こし、本人もまわりも変わっていくという内容で、その行動も大それたことではなく、自分にもできる小さなことでいいんだよというお話でした。小さな行動がまわりに良い連鎖を広げていくとともに、合わせ鏡のように自分にも返ってくる。言葉にすると立派なことのようですが、日常の生活の中でちょっとしたこと、例えば近所の高齢者の方に笑顔でご挨拶をして顔なじみになる、すると年配の方も留守がちなこちらの家のことを気にかけて下さる、お互いに見守り気にかけあうつながりが地域に根付いてゆくと、日常でもいざというときでも安心できるすみよいまちになるのではないでしょうか。

馬場

広子

鴨居会館の階段を昇っていくと、すでに美声の歌が始まっていました。あ～歌の上手な落語家さん、滑舌も良いし解り易いと思っていました。劇団四季から落語の世界に入った方だったのですね。

「一口弁当」いじめられっこの中学生が、河原で会った仙人のようなおじいさんから、発声、落語の小噺などを通し、貧しくて学校にお弁当を持っていけない子が、クラスの皆から一口ずつお弁当をもらう代わりに、いやな仕事を率先して行い、ついには生徒会長にまでなっていく、考え方一つ、勇気を出して明るく逆境を克服できた話を、上を向いて歩こう、アンパンマンの歌など絶妙のタイミングで楽しく聞かせていただきました。次は、還暦を迎えて退職した会社人間で家族を顧みなかったお父さんが、人のお役にたちたいという漠然とした思いで民生委員になり、息子、孫と暮らせるようになるお話。元総理大臣のお名前が次々に登場したり、会場の方に合わせた、懐かしい歌謡曲で、福祉、教育の難しい問題を笑いのなかで語っていただき、やる気の出る、楽しいひとときを過ごすことができました。

－編集後記－　福祉講演会はいかがでしたでしょうか？　大勢の方にお越しいただき、社協スタッフ一同、達成感のあるイベントとすることができました。（感謝）